

## 音楽

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
1年	<p>○意欲があり、音楽活動を楽しんでいる児童が多い。読み書きや、話を理解する個々の違いによって、授業内容の習熟度に差が生じていた。また、友達と協働して音楽活動をする経験を重ねることが課題である。</p>	<p>○歌唱は、歌いながら歌詞を言葉で伝え、児童が歌に参加しやすくなる配慮をする。また、鍵盤ハーモニカの学習においては机間指導を重視し、個に応じた指導を行う。さらには、器楽活動を通し、グループでの音楽活動を増やす。児童にわかりやすい目標や課題を設定することで、友達と協働することを楽しめるようにする。</p>	
2年	<p>○意欲があり、学んだことを活かしながら、音楽活動を楽しめる児童が多い。鍵盤ハーモニカでは、練習への取り組み方から、習熟度に差が生じていた。 また、友達と協働して音楽活動をし、学んだことを共有しあう経験を重ねることが課題である。</p>	<p>○鍵盤ハーモニカの学習においては机間指導を重視し、個に応じた指導を行ったり、グループ活動を行ったりすることで、友達同士教え合える環境を設定する。 また、主に器楽活動を通し、グループごとの音楽活動を増やす。学んだことを活かしやすい目標や課題を設定することで、友達と協働することを楽しめるようにする。</p>	
3年	<p>○リコーダーの学習において、内容を理解できる児童と困難な児童とで差が生じていた。 ○歌唱指導の際に、気持ちが高ぶり、必要以上に大きな声で歌ったり、体が動いてしまったりする様子があった。</p>	<p>○個々の学習進度を考慮し、全体に学習課題をあてた上で机間指導などを実施し、演奏困難な児童に個別指導を行う。 ○演奏の際に、気持ちを落ち着ける時間を設定する。また、指導が必要なタイミングで指導し、気持ちが学習に向くように声掛けする。</p>	
4年	<p>○意欲があり、自らすすんで音楽活動する児童が多い。課題としては、音楽を形づくっている要素について知覚・感受したことを言葉にすることが難しい児童がいる。</p>	<p>○座席表や学習カードを用いて、児童の学習状況を丁寧に見取り、指導の個別化の手立てとして生かす。また、音楽の感じを表す言葉の例を提示し、それを基にして自分の感じ取ったことを言葉で表現する機会を増やす。</p>	

5年	<p>○意欲があり、自らすすんで友達と協働して音楽活動することができる。また、話し合いの場では、ねらいに沿って話し合うことができるが、表現したい音楽を生かすための技能面に課題がある児童がいる。</p>	<p>○個に応じた指導をすると同時に、教師が教えるだけでなく、友達と対話し協働しながら学習を積み重ねていけるような場の設定をする。</p>	
6年	<p>○意欲が高く、友達と協働して音楽活動することができる。しかし、教師が指示したことはできるが、自分で表現を工夫することに課題がある。</p>	<p>○課題に向かって自分たちで話し合いながら音楽活動をし、発表する場を設定する。そのために、ペアやグループで協働しながら音楽活動する中で、聴き手からの意見や感想の共有を基に、自分たちで工夫して学習することができるように指導をしていく。</p>	